

お客さま自身による分類

スキーマタイプの決定は、お客さま自身の責任で行います！

お客さまのビンディングの解放強度設定値は、お客さまのスキーマタイプ、身長、体重、年齢、ブーツソール長の各パラメータを基に、ショップの技術者が決定します。各タイプの以下の説明を参考にして、ご自身のタイプを選んでください。必ず正確な情報を提供できるよう心がけてください。誤りがあると、それだけ負傷の危険が高まります。



TYPE I

緩やかな角度から中程度の角度にかけての滑らかな斜面を慎重に滑るスキーマ

タイプ I にも III にもあてはまらないすべてのスキーマ

TYPE II



TYPE III

中程度から急な角度の斜面を滑る高速志向のスキーマ

このタイプのスキーマは、平均より下回る解放強度設定値を好みます。こうした設定では、転倒時のリリース性能が高まる一方、ビンディングが不用意にリリースする危険も高まります。分類の不確かな初心者もこのタイプ I になります。

このタイプのスキーマは、レクリエーションレベルのスキーイングに適した平均的な解放強度設定値を好みます。

このタイプのスキーマは、平均を上回る解放強度設定値を好みます。こうした設定では、ビンディングが不用意にリリースする危険が低下する一方、転倒時のリリース性能も低下します。体重22kg未満のスキーマはタイプ III 設定を用いてはいけません。

あなたの分類から得られた解放強度設定値に満足できない場合は、その旨をビンディングの技術者に伝えてください。

注：

スキーマが解放力量問題を訴える場合には、本マニュアル88ページの「トラブルシューティング 解放値の問題」をご参照ください。

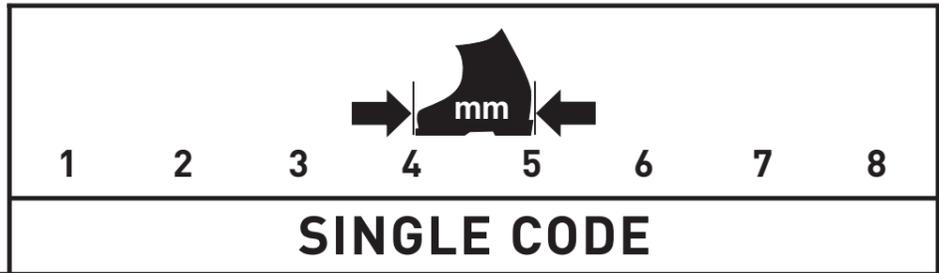
タイプ I を下回る解放力量を望むスキーマは、自分のタイプとして[I -]を指定する場合があります。**タイプ I -**（マイナス）は、体重17 kg以下のスキーマには不適切です。**タイプ I -**（マイナス）は1行上のスキーマコードとなります。

タイプ III を上回る解放力量を望むスキーマは、自分のタイプとして[III +]を指定する場合があります。**タイプ III +**（プラス）は3行下のスキーマコードとなります。

スキーマは、ねじれ解放値と前傾解放値について異なったスキーマタイプ指定を選択する場合があります。そうした場合、選択については、ねじれ解放値と前傾解放値の選択を次の順序でスラッシュにより区切って表示するものとします（例えばK/L=Kがトウ、Lがヒール）。

解放/保持 アジャストメント・チャート

注意：この表に記載されている初期インジケータ値は、ビンディング設定プロセスの出発点にすぎません。適正な計測解放値を達成するには、初期値の修正を必要とする場合があります。



kg (lbs)	cm (ft "in")	SKIER CODE	Mz (Nm)	My (Nm)	a-i	j-n	o-s/B	t/C-G	H-L	M-Q	R-V	V-6
					≤230	231-250	251-270	271-290	291-310	311-330	331-350	≥351
			5 ^a	18 ^a								
10-13 kg (22-29 lbs)		A	8	29	0,75	0,75	0,75					
14-17 kg (30-38 lbs)		B	11	40	1,00	0,75	0,75	0,75				
18-21 kg (39-47 lbs)		C	14	52	1,50	1,25	1,25	1,00				
22-25 kg (48-56 lbs)		D	17	64	2,00	1,75	1,50	1,50	1,25			
26-30 kg (57-66 lbs)		E	20	75	2,50	2,25	2,00	1,75	1,50	1,50		
31-35 kg (67-78 lbs)		F	23	87	3,00	2,75	2,50	2,25	2,00	1,75	1,75	
36-41 kg (79-91 lbs)		G	27	102		3,50	3,00	2,75	2,50	2,25	2,00	
42-48 kg (92-107 lbs)	≤ 148 cm (≤ 4'10")	H	31	120			3,50	3,00	3,00	2,75	2,50	
49-57 kg (108-125 lbs)	149-157 cm (4'11"-5'1")	I	37	141			4,50	4,00	3,50	3,50	3,00	
58-66 kg (126-147 lbs)	158-166 cm (5'2"-5'5")	J	43	165			5,50	5,00	4,50	4,00	3,50	3,00
67-78 kg (148-174 lbs)	167-178 cm (5'6"-5'10")	K	50	194			6,50	6,00	5,50	5,00	4,50	4,00
79-94 kg (175-209 lbs)	179-194 cm (5'11"-6'4")	L	58	229			7,50	7,00	6,50	6,00	5,50	5,00
≥ 95 kg (≥ 210 lbs)	≥ 195 cm (≥ 6'5")	M	67	271				8,50	8,00	7,00	6,50	6,00
		N	78	320				10,00	9,50	8,50	8,00	7,50
		O	91	380				11,50	11,00	10,00	9,50	9,00
		P	105	452						12,00	11,00	10,50
			121	520								
			137 ^b	588 ^b								

a...最低許容限度
b...最高許容限度

解放/保持 アジャストメント・チャートの使用方法

- 1列目のスキーヤーの体重、2列目のスキーヤーの身長に対応するスキーヤー・コードを決定します。身長と体重が同じ行にない場合は、チャートの上段にある方のスキーヤー・コードを選択します。
- 2a. ステップ1で得られたスキーヤーコードは、タイプIスキーヤーの場合のコードです。タイプIIスキーヤーの場合は、それより1行下にあるスキーヤーコードとなります。タイプIIIスキーヤーの場合は、2行下にあるスキーヤーコードとなります。
- 2b. スキーヤーが50歳以上または10歳未満の場合は、1行上のスキーヤーコードとなります。体重13kg以下のスキーヤーの場合、追加補正は不要です。
3. スキーヤーのブーツソール長(mm)が含まれる列を見つけます。
4. スキーヤー・コードの行とブーツソール長の列が交差する箇所の値が、スキーヤーの初期インジケータ設定値となります。
行と列の交差箇所が空欄となっている場合には、チャートの上方や下方ではなく、同じ行を横方向に、解放強度設定値が記された一番近くの欄まで辿ってください。
5. この値をワークショップ・チケットの初期インジケータ設定値の欄に記入してください。

機械的システム・テスト

1. ビンディングのトゥとヒールを初期インジケータ設定値に合わせてください。
2. 較正されたトルク測定機器を、機器に付属している取り扱い説明書に従って使用します。
3. ビンディングに対し少なくとも1回はすべての方向に解放テストを行います。
4. 各方向に3回のテストを行う必要があります。3回のリリースの中心値をテスト結果とします。
5. あらかじめ決定されたスキーヤーコードからチャートを横にした

- どって、ねじれトルク基準値が記されている列へと移動します。
6. テスト結果が基準値より上下各1トルク値分の範囲内であれば、テスト結果は検査範囲内にあります。こうしたテスト結果は許容範囲内にあり、これ以上調整は不要です。
7. ビンディングをねじれ状態に設定します。テスト結果が基準値より上下各2トルク値分までの範囲内であれば、テスト結果は使用範囲内にあります。結果が検査範囲内となるよう、インジケータ値を修正してシステムを再検査しなければなりません。修正されたインジケータ値を最終解放強度設定値の欄に記入します。
8. テスト結果値が使用範囲外となる場合は、以下の点についてシステムを徹底的に検査しなければなりません。
 1. 適正な前圧
 2. 適正なトゥ・クリッパー調整
 3. トウプレートの磨耗または汚れ
 4. 規格外のブーツソール
 こうした問題が修正されないうちは、システムに作業を施すことはできません。
9. 同様に前屈に関してヒールのチェックを行い、3回の垂直方向リリースの中心値を決定します。必要に応じて調整を行います。
10. 最終インジケータ設定値をワークショップ・チケットの最終解放強度設定値の欄に記入します。

タイプ I スキーヤー

• 緩やかな角度から中程度の角度にかけての滑らかな斜面を慎重に滑るスキーヤー
このタイプのスキーヤーは、平均より下回る解放強度設定値を好みます。こうした設定では、転倒時のリリース性能が高まる一方、ビンディングが不用意にリリースする危険も高まります。分類の不

確かな初心者もこのタイプ I になります。

タイプ II スキーヤー

• タイプ I にもタイプ III にもあてはまらないすべてのスキーヤー
このタイプのスキーヤーは、レクリエーションレベルのスキーイングに適した平均的な解放強度設定値を好みます。

タイプ III スキーヤー

• 中程度から急な角度の斜面を滑る高速志向のスキーヤー
体重22kg未満のスキーヤーはタイプ III 設定を用いてはいけません。このタイプのスキーヤーは、平均を上回る解放強度設定値を好みます。こうした設定では、ビンディングが不用意にリリースする危険が低下する一方、転倒時のリリース性能も低下します。